

1. 鼻アレルギーにおける nasal smear の細胞分布

○佐藤良暢、佐々木好久（城西歯大）

石川妙子（埼玉中央病院）、兵 昇（京都市）

目的：nasal smear の細胞学的検索は、鼻アレルギーや食餌性アレルギーの診断のみならず、治療とくに抗アレルギー剤エアロゾルの効果を追跡する上に不可欠の indicator である。すでに清水らや佐々木らは、Hansel, Bryan らの染色法を改良し、好酸球のみならず他の細胞、とくに肥満細胞の同定を容易にした。今後次々と開発されるであろう抗アレルギー剤エアロゾルを検討する上での基礎的データの一つを得る目的で、上記改良法により鼻アレルギー患者 332 例についての nasal smear の細胞分布を集計したので報告する。

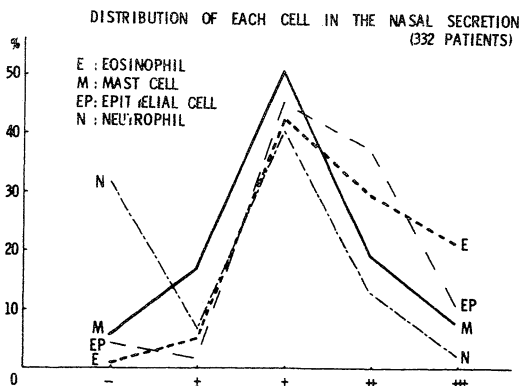
方法：すでに佐々木らが報告（耳喉 48:629~633）した染色法によった。細胞学的所見の判定基準は、400 倍率（鏡検）で次のごとく行った。

- 全く見られない -
- 全視野に数個見られる ±
- 各視野に 1~3 個 +
- +と卍の間（各視野に 4, 5 個） ++
- 各視野に多数（6 個以上） 卍

1 症例につき少なくとも 2 枚のプレパラートを作成し、正確を期した。

結果：nasal smear 中の好酸球は、全症例計 332 例中 99% に認められた（+以上のものは 94%）。肥満細胞は 94.3% に認められた（+以上のものは 77%）。肥満細胞は上皮細胞の多い部分に認められることが多かった。好中球が一のものが 31.9% 存在した。各細胞の出現や増減には略平行関係が認められた。肥満細胞が + 以上陽性で好酸球も + 以上陽性が 71.4% に存在した。

肥満細胞の出現に年齢による差がないことはすでに報告されている。以上の成績は、小児鼻アレルギーの nasal smear による成績とほとんど一致した。今後、同一症例の経時的追跡、エアロゾル使用時との比較等を検討したい。



MAST CELL (M) AND OTHER CELLS (E, EP, N) IN THE NASAL SECRETION (332 PATIENTS)

E \ M		-	
		±	+, ++, 卍
-	±	1 (0.3%)	20 (6.0%)
	+, ++, 卍	74 (22.3%)	237 (71.4%)
EP \ M		-	
		±	+, ++, 卍
-	±	10 (3.0%)	11 (3.3%)
	+, ++, 卍	65 (19.6%)	246 (74.1%)
N \ M		-	
		±	+, ++, 卍
-	±	22 (6.6%)	107 (32.2%)
	+, ++, 卍	53 (16.0%)	150 (45.2%)